

(総括評価表〔付表：戦略15〕)

取組みの方向性	百年の礎を築く	戦 略	【戦略15】夢を叶える教育 ～次代を担う人材を育てます～	施策数	取組数	H24事業数	H25事業数	H24決算	H25予算
				3	10	28事業	32事業	358,667千円	756,163千円

1 戦略の内容

(1)現状と課題
 本県の小・中学生の学力はおおむね全国平均以上となっていますが、意識調査では学年が上がるほど教科が「好き・わかる」との回答割合が低下する傾向にあり、低学年からの基礎学力の定着などが課題です。また、家族形態の変化や地域のつながりの希薄化が進み、家庭や地域の教育力の低下が懸念されています。将来を担う子どもたちが、夢を持つことの大切さに気づき、自分の夢に向かって挑戦することへの支援や、貧困の連鎖を教育で断つ取組みを更に進めていくことが求められています。

(2)概 要
 子どもたちが、どのような環境にあっても、学ぶことを楽しみ、夢に挑戦し、夢を叶えることができるような教育を進めます。また、熊本の歴史・文化などを理解し、郷土への誇りを育むことにより、熊本の発展を支え、九州、日本、そして世界を支える人材を育てます。

(3)体 系 (単位：千円)

① 夢を育む教育の推進	◆学力を育む〔施策73〕 ～子どもたちの確かな力の育成～ 【担当部局：教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	15事業	143,240	16事業	206,992
	◆貧困の連鎖を教育で断つ〔施策74〕 ～ひとり親家庭等の子どもたちの教育環境づくり～ 【担当部局：健康福祉部・教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	4事業	162,022	5事業	420,681
② 夢を拡げる教育の展開	◆夢を拡げる〔施策75〕 ～将来の熊本の発展を支える人材育成～ 【担当部局：総務部・企画振興部・商工観光労働部・教育庁】	(H24事業数・決算/H25事業数・予算)	9事業	53,405	11事業	128,490

2 戦略の評価

指標〔単位〕		策定時	H24 〈達成度・増減〉	H25 〈達成度・増減〉	H26 〈達成度・増減〉	目標値(H27) 〔単位〕	前年度からの推移の分析
①	教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合〔%〕	77.8 (H23)	76.0 〈-1.8〉			毎年度、前年度の割合を上回る〔% (単年)〕	基礎的・基本的な知識、技能の定着に向けた取組み等が十分でない状況が考えられる。
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合〔%〕	83.4 (H23)	82.4 〈-1.0〉			毎年度、前年度の割合を上回る〔% (単年)〕	
②	【補】「親の学び」講座実施率〔%〕	50.3 (H23)	62.0 〈88.6%〉			70 〔% (単年)〕	各教育事務所及び市町村教育委員会等を通して「親の学び」プログラムが広く広報されたこと、また、講座を実施した各団体等から講座のメリット等が広がったため。
③	海外高校への留学生者数〈再掲〉〔人〕	10 (H23)	19 〈19.0%〉			100 〔人/4年(累計)〕	本県の高校生の状況としては、海外大学進学や留学に対する意識が高くないと考えられるが、説明会の実施等により、意識の醸成が少しずつ図られていると見込まれる。
④	ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数〔人〕	1,432 (H23)	1,342 〈78.9%〉			1,700 〔人/年(単年)〕	ものづくりチャレンジ事業のうち高校生の事業の実施校が前年度を下回ったため、全体減となった。

(2)平成24年度の主な成果	(3)平成25年度の推進方針・推進状況	(4)戦略を推進する上での課題	(5)今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ●徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた授業の推進、学力調査のための問題(「ゆうチャレンジ」)の活用等により授業内容が一層充実。 ●「親の学び」講座が県内全域870カ所で開催され、34,857人が参加。 ●「くまもと家庭教育支援条例」の制定により、家庭教育の重要性に対する理解が向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高等学校における「親の学び」プログラム次世代編の普及及び進行役の養成。 ●くまモン活用の教材を検討。 ●思考力や表現力等の向上のため、各学校において「確かな学力」の向上に向けた組織的、計画的な取組みを推進。 ●家庭教育推進フォーラム等の様々な機会を通じて、家庭教育の重要性等を啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考力、表現力等の向上に向けた教師の意識改革、指導力の一層の向上、授業の改善。 ●県内全域での「親の学び」講座実施に向けた進行役の養成。 ●効果的なくまモンの活用方法検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「ゆうチャレンジ」等を活用した学校総体としての学力向上に向けた取組みの推進。 ●「親の学び」講座の実施率向上のため、市町村教委等と連携して開催。 ●くまモンが活用できる教育プログラム開発の推進。
<ul style="list-style-type: none"> ●生活保護世帯を対象にした子どもの学習・進学のための支援等に小1から高1までの76名が参加。高校進学希望の中3生全員が進学。 ●95名のひとり親等に対し、在宅就労に向けた技能訓練を実施し、経済的自立につながる環境整備が進展。 ●ひとり親家庭等応援隊に県内各地の企業・福祉団体など70団体、約600名が参加。 ●母子家庭等就業・自立支援センターに「日曜相談窓口」を設置し、平日は相談に来られない方のニーズへ対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉事務所から対象となる家庭への働きかけを更に強化し、参加を促進。 ●多くの市町村での地域の寺子屋の立上げ等を推進。 ●地域の学習教室40カ所(子ども120人)の開設をめざした取組みの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各家庭で幅がある子どもの教育への関心度の向上。 ●社会全体で子どもを育てるという考えに基づく、ひとり親家庭等の応援の取組みの継続。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生活保護世帯の進学希望の中3生全員が進学できるようにし、また、高校生の中退ができるだけ少なくなるよう支援。 ●各家庭に対する丁寧な情報提供の継続及びその推進のための家庭・関係機関・学校等の一層の連携。 ●地域の学習教室等の民間団体への円滑な移行、そのための広報、掘り起こし、各種調整等の実施。
<ul style="list-style-type: none"> ●私立高校の海外高校留学生数は8人で年度目標を達成。海外大学進学者数は5人。県立高校生の留学生数は11人。 ●県立高校全校でインターンシップを実施し、体験生徒数：7,279人、事業所数：2,691事業所、体験率：59.5%を達成。 ●ものづくりチャレンジ事業により、738人の小中学生が様々な技術・技能を体験。 ●知事出前ゼミを2校で実施し、夢を持つことの大切さについての児童生徒の理解が向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外大学に進学できる英語力の養成、海外進学に対応できる支援体制の構築に向け、「海外チャレンジ塾」を開講。 ●州立モンタナ大学等進学のための奨学制度の拡充等により、海外へ挑戦する若者を総合的に支援。 ●キャリア教育に係る多様なニーズへの対応のため、関係部局が連携し、キャリア教育推進事業を展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外へ挑戦する意識の醸成及び進学の実績づくり。 ●県立高校普通科のインターンシップ体験率の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ●私立で累計40人、公立で累計60人の海外高校への留学を実現。 ●県立高校(全日)のインターンシップ体験率を70%に向上。